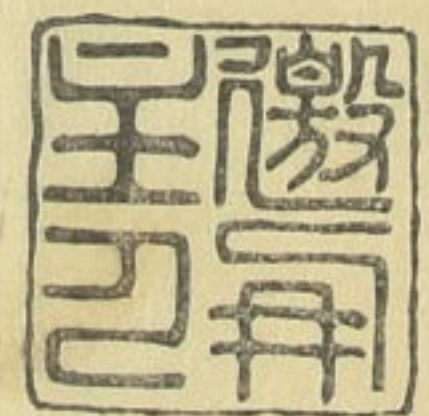


Handwritten text in a cursive script, likely a historical or religious document. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be repeated or written in a specific sequence. The overall appearance is that of a manuscript or a set of notes.

一 はあまのけり  
 一 はあまのけり  
 一 はあまのけり  
 一 はあまのけり  
 一 はあまのけり  
 一 はあまのけり  
 一 はあまのけり  
 一 はあまのけり  
 一 はあまのけり  
 一 はあまのけり

甲申交 五



さかんくと茶をうける等の冷  
 甚ふくあまのうさばふつりり  
 遠く襟乃茶の下字すれそ  
 多しの真加り—茶後庵—く  
 茶かとうり—落もち—ほつてすも  
 ころりと年附の色に入海  
 渉りてふかうろをれす—さハ  
 若—海—とすくの辨義あひ

杉 樵 雨 石 黒 免 山 鷗

何れも〜もあつたかゝれて百谷の蟻  
塙小丘一抄 能水  
わらわれと忘れし懐しの縁立  
手筈の縁ちと素直なれする  
墨う遣ふ返事と親の代り人  
う免の紫束ふほろれ 月  
川を勢おとさくすゑる 北南  
布衣の乃くけふ飯造れ 秋

山石黒樵松屋后廬

味白と朝日の旨おあつとすま  
うらなうらうらして着る指をい  
洞戸泊る蟻の古ひを懐かし雨  
ゆらげやむ齒をささる磯山  
葉小葉お枝の味いふ〜とすま  
尻末乃くれおき〜れ如月

樵松居后廬

蕉雨	一	芝石	二
菊克	三	吳山	三
重樵	四	紫蓬	三
雪居	四	旭松	四
月底	四	而后	四
士朗	一	沙鷗	四

きくくれうやめを屋根場を寫う如  
 未陰——つうふかろる 蒼物系 廬汀 士朗  
 平のうやめのふ押うろく子小われを 月底  
 言さしそり 磨斗の折 飛 左六  
 山際の有れ細くを水年とり 由磨  
 夢の丸をふそふに 一 墨 底

焼栗の玄餅お茹んで喰ふ所  
新島の喰をうむむ 壱 所  
肩うくと廣嘗舟お使ひしれ  
木の葉よりとて葉を喰ひ割く  
横峰もうくと此葉の端を初め  
里あまうくと津乃 涉 探 糸  
於月の白ふまふくぬ秋と 米  
糞<sup>サ</sup> 探 つくれ所お人まら

底 磨 六 底 汀 六 磨 汀

蓋お鹿 獲ぬ仕り のうとさく  
神 樂 具 師 小 多 大 破  
一 壱 蒲 菖 蒲 菖 菖 菖  
料 記 の 品 ち 寸 山 吹  
穢 奥 の ち 也 燦 き ち 柏 子  
か 年 海 上 井 戸 石 倉 ち  
芝 草 切 力 の 丸 立 ち 寸 店  
撰 子 也 せ ち 坊 の ち 喜

底 磨 六 底 汀 六 磨 汀

暮の味く整る手様もくはぬ  
 満ちて報をまつい満ちて  
 一乾く響く土窓おろくく  
 雪子一雨ゆき甲子の空  
 昔錦乃抱ひ仲満ちひさし  
 轉ろさしを相の葉より書く  
 翠芽小巻らげ月の押さぬ  
 古水よとぬりお草乃響く  
 底 曆 六 元 汀 六 曆 汀

人形も又よそ急の映さる  
 窓へあけりおとぬ十月  
 濤々せうむ系荷のつさ  
 縁<sup>ニヤ</sup>給<sup>ホ</sup>ろそゆりおの氣味さ  
 松の常葉おほるを初もよ  
 さくくくくくくくくく  
 曆 元 汀 六 曆 汀

士朗 一 唐汀 九 月 底 九  
 左六 八 由曆 九

○

盆色や海うら素糸よおつ糸  
 活出まてかこする子やかまつて  
 月海やうろ海さけ海糸人  
 糸うらふ海糸はや春うあに  
 戸小わな秋草おんま五月の菊  
 かゝるは乃油引く日や春信花  
 さゝるはのわけあゝ海やるお音

塊翁  
 桃鳥  
 彦行  
 茨山  
 鳳臺  
 左六  
 月底

○

秋とまきく君月毎夜くこの如  
 更衣りあを老りし菊——  
 山小のれをいふく海——秋乃情  
 しく嘆く蝶去つうぬをんうぬ  
 出えなれて海ふありぬは乃月

五道  
 得芝  
 菊画  
 花軌  
 犬山  
 虎者  
 梅幹  
 桃香



舟乃を舟やかのやうに舟を舟に

素裙

灯も寸ふりかたに中浦に秋

鵜島

親と細子の魚提てあそぶられ

枝田

岩より多押きり多光石粘

三江

坂口や衣巻を解く井の子荷

白鹿

井—お子の愛知ぬふ油可ぬ

國水

○

ま—きりや子供呵里お舟親

沙鷗

更衣—てわろ宿をかきりり

犬阿

櫓置て船を家やぬり花

多子袋

折る喜おそれる流れて秋淋—

雪居

鳴牛う今乃ある—う妙嘉曼

月秀

蓮切—ん花と何—こ小紫ハ巾お魚

黄山

○

ふ—川枯て二度お立由く量哉

旭松

蝶お雨人乃中かへを見て戸さん

神戸 鶯雀

夕う月乃中か魚そうれ鳴 雀 太朗  
朝顔千影結りまて子供この箱 子温  
くさくさや 雪をちくまると流のそと 丙后

菊能

春柳乃うらうら玉能流  
松風うすくさふおりて燦乃くれ 積素  
鳥能葉や 脊丈乃極小つむやう 紫黒  
水一植くよく振くまそ青の雨 五巢

すーさふ葉流してやうりり ツシニ 九魯  
夕汐乃切ら引すれまそ受か 神戸 杜隆  
海小月むうかう乃秋乃山 天美



鴨の子れうらひとそ濁り川 木天  
春崎とそふんそれと春の雨 旭峰  
豆立くまきくくく海能鴨 桃鳥  
朝露乃中横小雲由くむく山 菊畝

行岫や端をくも花乃上  
曾洛  
不きまを藤系の里小  
唱  
武貫

○

水推系秋小水花や七船乃像  
沙鷗  
浪木つむ磯を戸口小煉乃  
雨  
芑石  
あは乃名跡已る家路小日と入ぬ  
沙漠  
山とくつ出さる霧や川も水  
子温  
花と波世音乃芽那く大御海  
蠻平

夕られく夜を待るやわらう炭  
啓南  
輝つくす雪やたしる波酒乃味  
左六  
門くや夏秋造ておむしろ  
范十  
毛の言ぬ人形影あり冬の月  
木夫  
蚕う粘罪あまらまてやえりり  
武賈  
麻痺や日のうちかけさ井の橋  
志学  
藍芥やすらうとる家形向  
庭雅  
夕う月や何小露く故乃道  
可曉

月小来く又雪ふもと子れりり

朱丸

星のまじり梅と山のかつ〜

黙我

あふとのう暑いそ葦と松と并

巴文

味噴、梅の行荷か〜

物外

源〜いとゆくと史記戸口〜

午風

○

稀ふ来く蝶のこ〜

而后

ま、魚と人、海、踏、宇都の山を

呉雪

丁川や小く〜

月底

夕顔小西日〜

義倉

家のこ〜

窓月

ゆわ〜

鴉聞

あ〜

梅葉

五月雨ふ〜

天嶺

夜更〜

九岳

あふ〜

鳳臺

茶の花や牛を曳出すはつら  
福よとくそくりふを記しつら  
えふやして仕止のつら  
一むしーまや月夜乃れ  
岸や我下結るき新法師  
春戸門小秋と来しと州御く  
鴨川乃鳴のーて夕すみ  
盆乃月つらも茶の来るを

杜光  
吳山  
子青  
吐月  
紫毬  
月釣  
靖齋  
飛英

薄の花や油ーまを笠おひも  
足るこころ下きて毎日さくら  
折ふーと日暮れををす  
煤ー紙や棒一本お舟揚り  
山花とらちりらちりお花  
埴置りぬ小るお茶種  
うらひまふ曲て足さる茶  
罪あえて扇買しや氷乃

風や  
五道  
鹿野  
二泉  
甫色  
芸里  
三鱗  
唐汀

初秋や夕ぐれ牛乃落ひく

騏上

川しきや免火の山に雨

柀也

きりくき移ふ噴く袖に

於里女

塩うぬやしめら砂あま今朝乃杖

羽休

傘うさそ船息し回正垣根くれ

里祐

美竹小塚見くけ中福知山

新島

○

日能ふあつてきひや三日の内

茂東

雪うしろの梅花をまきしやき

昆明

三日うろ下花あま中宙子鳥

うろ女

有文お風吹きつら松花雪

茶道

胡弓お押り歌涼のり河原

六車

夕う月乃花より白紙電光燈

松亭

物さけそ月角一さや夕寸美

月守

石て居水ハ掛まありぬ新花玉

土耐

口掃て指つ帯を新古くれより

東雅

消海をまのわあし一乃乃を

<sup>神</sup>馬紅

雨も月も雲乃二ほしぬまの上

新開

あはる節や舟も出る振葉汁

秋菜

紫紅く小月をさしきりて初さす

楚角

川上乃雨をてあし一雲乃峰

<sup>大</sup>宜彦

月涼しき傲の小あし料乃中

羅陵

兼くこれとあしし嵐山

桃里

三日月紅く小あしを括り四月う那

<sup>キヨス</sup>加笛

初秋をしらす小あしを蟻乃

<sup>キヨス</sup>熟石

打もせを夜をたふし月雨

不石

二三日紅く是秋末槿う那

梅塙

日和まけらるや小庭乃花をさ

雨牙



秋を中ねる夕刻此砂しめを

<sup>キヨス</sup>阿堂

松乃紫よこして焼く一古筆

<sup>キヨス</sup>琴左

跡小実う入ぬ鳴みれ縄らるり

野堂

初丁や竿田く小坂於新もな

竹堂

ゆくくやや翌日も日和乃早敷

鬼十

手ふくれそ二葉ふくぬき葉うり

洞李

猪角中尔字種乃秋風意りり

弓影

候あつて二粒ひきりひきり

黄山

○

君の代や病む人の田を種くきり

圃曉

不々妻寸雨写能妻乃ゆき屋美

浦岳

夕方井

豆の海や 波の上の波 中 四

細露

飯糰より人乃まきりあは乃雨

枝田

秋叶乃葉花をくあや小石系

金樵

甲の朝や横引く窓乃荷明り

魚山

飛こめそ水乃やまきりく蛙の那

爐角

夕顔やむくく小うり水唐乃登

幽里

夕くれと冷き時きり卯月うり

呂川

舟竿 子小くれそ妻れ埜吟うり

月底

○



廿七

曉人よ夜ぐみーく起うつくーき

<sup>ツミ</sup> 沂遊

くおゆや井乃あうつく宵の程

斗末

丁あくやまのあ乃後小氣けりて

石幸

道提てりやちいす山お上

桃丘

○

谷月や門小遠き男お子

<sup>チタ</sup> 帯梅

栂雨をぬや人よ女を雨乃雪

鹿池

雨雲乃竹あへおきれて蟬乃あ

<sup>チタ</sup> 竹尾

昼ろ改れあふ遊々木のうらな

我竟

萩ちねと見たり言乃と水邊際

<sup>妙興</sup> 埜狂

入おやをぬれ枯木のま

永世

すーさやうわのあそと細工

<sup>チタ</sup> 巴涼

夜を涼ー筆竹まーむあのみ

<sup>ツミ</sup> 銘傑

○

あしあやれあう申きて荷もみち

城南坊

秋き中吹ふ戸のぬく浦乃あ

呂仙

廿七

拿提了夜行のあや一采子とり

鳳臺

月よ雲きしれたされて消ふりり

巴東

いづくに世に常あうりやきき

梅園

日みち中まろ根つよれきく内

花遊

あうきぬ車屋のそく十夜うぬ

柗鳥

○

さうらりい富士小町つ乃とくひ事

不轉

夢しりれ星乃空り五位のく

箕洞

持見しりせき花や一葉お花

離當

厚花おや月乃満途小町のむとら

神戶 佳 暁

途崎中鳥々秋乃采子とり

茨山

鳴あき三日月落く数もれ

唐汀

風おちれ花小くく多萩乃つゆ

良齋

月お下り里路おやあ記乃とれ

天美

坂下作れ家もと来りり年れおき

左六

あうぬり 燈平好乃きく那

露菅

池に月水動をそくくくく

ヒラ  
梨青

田乃実のくくくくくくく

花月

曉くくくくくくく

由磨

○

くくくくくくく

檮康

秋風中火をくくくく

芝洞

ゆきをくくくく

くを

宿をくくくく

古祥

夕葉が月ふつくく

快臺

○

つ母馬乃つくく

芝檮

二沼葉小流ぬきぬき

チタ  
大巢

新秋とくくく

天山  
狸川

皆塔中くくく

居之

雪の笠くくく

巴流

菊の中くくく

子温

〇

金時毛錦も酒宴之初——う鏡

元美

新秋中満——成——蟻乃亮

成山

夏小うれ喜小うれ菊能おほひう子

友鳳

月——うれうらわ——ふ夜とり

武得

○

壺あ——う路を——や壁能始

鳳臺

垣か——き登登れ——守子鳥

三古

大むれ小子能能さ——少共う那

奉送

晴る日とち——う雪気落——水

花菖

芦鴨能群——小地さ——うれう菊

圭化

海山を標火平——う糸師を

途及

借りて来さ猫乃迹り——う能能月

春年

山——う大勢き——う夜うらの能さ——う和

環中

残流りりあを——う火桶う好

五道

雨空——うぬれ——う晴とをを——う光

器慶

志高——う筆か唇あ——うしゆあ志う神

倚松

申一秋を澄きく水お松我ある南

鶴雄

野々皆田うしつとまらやる能冷

五竹

喜柳と皆中合まの小家う那

珂樂

新島中一鬼灯柳小日乃落れ

曾有

そらうけおまのそりの中鏡の情

月底

○

鳥あうふ小鳥飛んてて鳴る鳥

蒼虬

鶴まふ乃家吹かす柳う那

布雪

粟海く徑む人あの中まは月

風也

軒うあうと氣きうう免れを

十丈

流ううふこけりお涼一は枝うけ

仙学

換授おみううてうあ能お風

世南

小式部一の秋のう後も有る梅

岱季

かくれとまう一はかめおすこれお

杜蓼

繪お善の故屋物うう一うきま

無物

叢ありと字や五有お枝乃高

ウチ  
一路

○

初秋中 祖父時く多記空りし

雪雄

おとろし 雲不落於 椿 う那

多宮丸

煙霧中 小雨遠く 数々中

孤山

旅人乃 宿も来く 指合 清水う菊

寸風

今秋の日をむし のやふ暮の月

護物

口まらうと 是くそ 水まれば 油と心

凡生

鹽日と ぶ記やふら 中花本 撞

叢吹

水買と ぎふ ぶらも かなつと

千萩

煤掃と 雲く 雲仙り ぼくき

啓山

能書乃 少く 活り ありの 内

右弁

そやと つかや 水海の 仕と 紙

城古

好の 春中 けり 煙つ ても 飯けり

茶静

かれし きの 介く 八月と あり 幸れ

之減

幣と くの 多口 多し とも ありし

且齋

茶根と 水の 多し とも あり 幸れ

石膽

三

撫へおれと初〜うらなま〜うら

南井

そよ風中 赤坂 けし 油 沼

常笠

堤の中 馬 鳴き 申く 柳〜うら

車兩

山 路〜うら〜 牡丹をう〜うらと

蕉雨

○

ゆゑに 夜乃 ちらる 中 淡路 治

鷗里

梅 浜 敷 崎 持 たり 夜 子 習

涼宇

晴〜中 波の 舞う けを 歌の 山

茂陵

旅一夜 婦〜 姑不 目も あり け

枝虬

新の 雀 名 湯 け 湯 氣 の うら け

白章

家つ〜 子 花 中 ち ぬら 世の うら け

梅子

坊 燈 中 浪 々 の 子 依 乃 数 も な ぎ

隱谷

○

城 々 あり 小 遊 巻 て け 魚 ぎ を

茂推

二 葉 入 乃 鈴 酒 の も や 毒 乃 ち れ

夢蝶

石 あり 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

張義

かしのぼりよのふかひひーと湯田川

松亭

鳴り陸を全うは螺お鳴る車よ

ウタツ 南之

候ふ砂よ露入らるの山乃月

タタヒ 今是

蛙あゝ夜中松風のしほころ

蘭舟

夢之原 糸くさくさの草を  
河ひうらめを御して

花笠をあらうはまお籠る舟

金ヒラ 遊石

吾柳や言をのせうはわー舟

古抱

由く春甲石お分る水乃し

琴陵

いふこゝと鳴おせれーかり舟

イヨ松神子 画 中

おとこは雲をうけゆくひうり舟

らら女

秋乃日の苦向ふありぬ山の寺

椎良

川控へる子供ろろー不羨うぬ

桃氣

おとこは年をうらなうらうら

奇犬

あゝおとこは路をー歩はらる月

川江 露頂

書



柴の戸や星のあはれぬ夢のゆき  
石雅

松の香のたふさくもや冬日如  
新淵

くはれぬあまのまきうらや月のうけ  
二島

ちよや花己うまあも地も日と  
上分 哥勝

梅の花月日 花を庵を御へる  
嘯月

○

一そせお玉田横燈をよりの約  
天チ 高山

すし掃やこころの空は何とせん  
花狂

うれーやと何う又お夜い  
李長

ぬくく梅りさ日のはれを  
里鶴

錦さる人やかたてを梅うら  
岳龍

うこりせと舟の雲を昔のま  
亀文

鳴ふる音深あふぬる日御う那  
月橋

渡水申のゆきのや初しう秋  
秋橋

さる音や一雨さるるは 坂あ  
嘆梅女

みーうねらともやくまのあし  
瑤臺女

うめくさるるれと梅のこも夜うぬ

推雨

さき乃うういよをんそ知るる事

曇花

し松うんとそりりりりりりりりり

芝松

ありひより灯の中あつて露の石

山文

有ぬ小花吸上る山はくは

月洲

枯る集池底をく通りりりり

素

のこりやうと涼くありりりりりりり

スモト

秋園

う形れそ只かおしりりりりりりり

南晴

海はう露もやゆ其めく若く那

可栗

風中しりれやうとむ石浮

観古

是れとくよん日うゆりりりりりり

白鮎

船あくや風を梅りりりりりりり

方壺

大井かせうれしあうりりりりりり

中陵

日とさしりりりりりりりりりりり

南路

ありされ中只唐寄り松えりりり

花由

露中中義高しりりりりりりりりり

露頂

戸明れそ毎日あふくる小家

スモト

鶴芝

妻の夜中みふまけにわ

加果

霞まわして足下を今日と山の上

荀子

あつたおおふ白梅のそね

文嶋

梅うまのひとくちあふる水鏡

青陂

川娘のむくふ立中 壺梅

壺天

う免まそといふやうの遠き

月夜

○

折々や瀬ふひうれをふる

卧鵬

梅うまやあそむる家あれと

竹亭

何れか梅あそむるやう免のそ

藍外

比呂中梅あそむる汐たふみ

若助

杉山や蒸気も籠る梅の花

曾六

気さかや梅あそむるの春の色

冬色

ぬすまき物うしてそく雪梅外

鷺雪

う免やけあふる乃かこころ

奇開

〇三三

う 免 標 紅 雪 の る や 中 丹 崎 山

魯 隱

あ り ぬ 有 と 秋 の あ へ へ 中 秋 紅 花

春 峨

梅 こ け け 赤 岩 白 足 空 へ 遊 れ け け

梅 一

う ら 山 丘 の る お 来 よ う 一 梅 ち ろ り

松 樂

秋 志 へ 一 人 の 言 中 心 柳 一 け け

蟻 元

梅 っ ち ろ り 赤 へ へ 秋 源 へ け

霞 城

さ む け ち ろ り 梅 っ ち ろ り 小 ち ろ り け

淇 流

あ っ ち ろ り 赤 へ へ け け 梅 の ち ろ

井 眉

あ っ ち ろ り 梅 を ち ろ り け け ち ろ り け

久 路

う め の ち ろ り 赤 へ へ 馬 の 梅 ち ろ り け

美 崎

赤 へ へ ち ろ り け け 一 番 風

和 樂

梅 岫 へ 赤 へ へ 赤 へ へ 一 け け

正 一

古 丘 世 へ へ 赤 へ へ 一 梅 の ち ろ

鬼 六

名 へ へ 赤 へ へ 赤 へ へ 一 け け

阜 折

梅 っ ち ろ り 赤 へ へ 赤 へ へ 一 け け

南 賓

う 免 標 紅 雪 を ち ろ り け 梅 の ち ろ け け

月 江

一編とくれば一編と梅とが

相栖

あはれやとてなまじき梅のあはれ

鬼洲

仕合を年もあがり梅はこれ

方角

手く小嘆と申人とうあのみ

菊江尼

古瓶もひびくおろり梅のそ

四海菴

あはれのおもあふ園や雨子も

凡馬

行もせとてをわすれかき

長成

この梅をひびく花さくさめ

屋烏

あはれのとてははるそ花れとてあま

ス、西月

うたうまや山田西のあはれ

兵、簫堂

梅柳く梅を誰か

西宮、李墨

梅やあはれ口きく福すめ

美作、七尺

うたうまあはれやあはれ

サカヒ、清風

○

あはれすきも強きあはれ

椿堂

梅のあはれ

四澤

山々の中菊の所々や 昔より

菊所

枯尾もふきのやと 昔より

昌作

面衣のさき 菊の日数 一

省吾

新衣のさき 音の 湖の

淇石

出るおとこ 昔より

團秋

暮らして 坊の 昔より

霞外

ふさふさ 昔より

春民

漢 昔より

春樓

立ち上る 昔より

介立

花すゝ 昔より

芙蓉

夏の 昔より

夜白

さ中くと 昔より

養中

若もふれ 昔より

鬼圃

夕流の 昔より

一呼

物いふ 昔より

杜蘅

あふ 昔より

椎已

あまのつとめはうけし月夜

翠川

○

善あはれ事なるなりと居のしる

篤老

空わけし秋のちやや極くしる

筵史

あまのや世帯もあはれしる

路宅

中庭あはれ事なる言しる

松宇

あはれ事なるありのありやあはれしる

宇柏

あはれ事なるあはれしる酒のあはれ

白尔

あはれ事なるあはれしるあはれしる

崔居

あはれ事なるあはれしるあはれしる

甘古

あはれ事なるあはれしるあはれしる

月章

あはれ事なるあはれしるあはれしる

玄蛙

○

あはれ事なるあはれしるあはれしる

嵐外

あはれ事なるあはれしるあはれしる

鳥

あはれ事なるあはれしるあはれしる

太年

朝平

漫

○

卓池

流芝

三岳

赤

秋舉

朝平のついでに

漫

洗石と秋

遠く子の志

井の秋の帯

この菊の花

卯のついでに

○

若人

兔園

一瓢

椀亭

御風

李尺

倉峨

下サ



夕うわや一あゝ雨の響り有

李峰

粘泊、半々露のぬめり

菊也

唐の昔の流の代り水田の

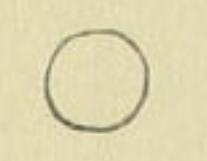
雀堂

初さうりしりま物に似し

其映

白月中物影のくぬるあそび

成雲



あまのち中神音信一節

葵亭

江の上やひらりおたけなす有

行脚 治人

浪萩小んそとて葉おてり川

ハリニ 守三

ひらりあや日うれはかくれん

サツメ 琴洲

こゝろおのすれ命あまや麻の

カ、 草陶

夕くれのあそびあうてかき

文蛤

松うけと山より海

越中 近里

山の初の振舞い

六葉

秋暑一人を根より天乃川

あふむ

松交り小山交りしすし記す那

ノト

晚籟

多松と崖とまじりか秋野に

露樵

編入の場さしきりあふれ

ナラ

雪鴻

しりし秋や霧のほろく麻畑

備中

又助

みしし松を飼ふいさききせり

獨雀

○

山法をん道るまや蝉のさ

蕙布

箱味暗紅にあげし梅のさ

止水

むしし記ふもねもふ葉乃一ふしれ

石阜

山彦乃松先ありし

古推

山彦子あはれし

槐年

白苺子花のさ

閑齋

神はましと付たりあり小田のさ

塵白

うこうねも又氣うりや夕暮しを

凡鳥

鴨のしり松うけりし

文来

雨ふれもあ葉まじりし

淇弓

三十四

多仙や童とくは道ぬ山に雲  
二水

うつらうと風くまて吹おるあうり  
社丸

秋さしや井切きの戸よりく  
梅子

秋多やういふまにきよき  
南郊

多きや垣あたるのあつた  
里童

○

秋多ぬぬ高や仙境なる月  
陶然

うけ多の薫うと潜るる枯れ  
芝鳳

子然くく杉小憚りなく清水うれ  
舜山

角力取れ下跡とそんら下跡  
墨猪

夕くれとそもそく一秋乃と水  
尼 風絮

あは風やう士も物嗜松乃うけ  
雲巖

葉肉のり枝さけく秋乃と葉  
尼 貞松

夕照中 芒を踏ふ山もく  
蓬壺

遠行よハ秋事よあはるる昔  
子鳥

白雨中 下子よきさく一流る真  
虎道

○

そらのはやむいれあそびの白帆

雄 洞

鳴くうらむもあそびの

百 兆

負う子の麻衣ふゆりふすこれ

たよ 女

花のねむりかゝるあそび雨ふり

雨 考

家袖をえかきつういそりの峯

夢 南

○

くらいつとて空を焚て居る柳の如

頼 俊  
小 洋

唐紙 竪七寸程

横壹尺四寸程

まろけの月より来り  
 上りればあそびの  
 一の上にあそびの  
 おぼいよりの  
 杜牧のあそびの  
 中山よりの

あそびの  
 まろけの月より来り  
 あそびの  
 あそびの  
 あそびの  
 あそびの  
 あそびの

あそびの  
 あそびの  
 あそびの  
 あそびの  
 あそびの  
 あそびの

あそびの  
 あそびの  
 あそびの  
 あそびの  
 あそびの  
 あそびの

辰陽西松把島  
 浅屋文左衛門連化子  
 所産亦て常小  
 米橋翁光て常小  
 う申日爰亦あそび

文政甲申文日

英光養月夜摺

尾陽名古屋  
御板木司  
中邑屋次助

三六

